

ひがふなフェスタの歩み



2015年からはじまった「ひがふなフェスタ」の活動目的は、①防災・防災の強化、②子どもたちの未来のために、③JR東船橋を中心とした地域住民、商店、企業、学校等の横の連携(つながり)を基本方針としています。この「ひがふなミーティング」開催にあたり、歩みを振り返りながら、地域に自治会をはじめとした住民のみならず、学校、商店、企業、市役所、警察、消防など、あわゆる方々の協力で、今日まで続けたこれだと深く感じました。そして、このようなシンポジウムの会、イベントとは少し違う角度からの皆さまとのかわりあいが出来たと思います。いつ何時起こるかもしれない震災に備えての準備、意識を、ひがふなフェスタの活動を通して、自分も含めて一人でも多くの方々に伝われば、と思いました。

ひがふなフェスタ運営事務局 役員 高橋直人

大船渡「津波伝承館」齋藤館長



私はミーティングが行われる一週間前に岩手県大船渡を視察させていただきました。津波伝承館の館長様、商工会議所の方の被災された当時のお話を聞いて、被災地に初めて訪れた私にとって深く考えさせられる事がたくさんありました。実際見てきた大船渡の現状と津波伝承館が用意された当時の映像が重なると、館長様や被災された方たちの思いが伝わり自然と涙が流れました。船橋市の津波や震災時の考え方を学んでいく中で、被災された現地の方たちの話と船橋の現実には、まだまだ津波、震災への意識の差があると感じます。ひがふなフェスタの役員として、生まれ育った船橋で自営業を営んでるものとして、自分達は地域の防災の為に何が出来るのか、ひがふなフェスタを通じて考えていきたいと改めて思いました。

ひがふなフェスタ運営事務局 役員 積田慎太郎



齋藤賢治 (さいとう・けんじ)
一般社団法人大船渡津波伝承館
出身地：岩手県大船渡市
最近の防災・減災活動：大船渡津波伝承館に於いて日々地震津波の経験上からの教訓及び被災後の生活についてお話をしております。更に、自治体や団体、学校、大学などに出向いて講演を行っています。

グループディスカッション&発表



後半では地域の方をグループに分かれていただき、ゲストとしてお呼びした齋藤館長や松戸市長を交えてディスカッションをおこないました。テーマは「防災に関してひがふなフェスタに望むこと」。短い時間ではありましたが各グループで東船橋地区での防災の問題点、疑問点、要望点がそれぞれ出されて有意義なディスカッションとなりました。「東船橋の防災」に望むことは色々な世代や職業に応じて違いますが、はっきりしたことは、齋藤館長の講演にもあったように「自分だけは大丈夫」と思っている油断であるという考え、そこから起こる準備不足です。そこに住んでいる人々は？企業は？自治体は？とそれぞれ考え方がまだまだ共有されていません。また、震災等が日中の場合は住民が他の場所で就労して、災害の初動対応が出来る人の年齢が高齢だったり、子供たちだったりするのが現状です。その時は地域外に住んでいて東船橋の地域に就業している企業の方々も重要になります。自治体の方も初動は地域に方々に依存しており、フェスタを通じて地域で出来ていること、やらなければいけない事を周知できればと考えています。

ひがふなフェスタ運営事務局 役員 本多隆一

今年度のひがふなミーティングのテーマは「防災」でした。様々な立場で活躍されている方々とのグループディスカッションでは「3.11あの時何を」をお話いただきました。皆さん共通していたのがまさかという表現でした。そして、3.11からの経験を踏まえ、「ひがふなフェスタに何を期待するか」に移り、貴重なご意見を沢山頂戴することができました。皆さまの熱い思いが伝わってきた時間となりました。

ひがふなフェスタ運営事務局 役員 佐藤正憲

今回のひがふなミーティングで、大船渡の津波伝承館の齋藤館長の震災直後の津波のが襲いかかる映像を目の当たりにして、自然の力にただ立ち尽くし叫ぶ姿に心から震えました。ここ船橋も目の前に広がる海、もしも大震災が発生し津波が発生したら即避難を選ぶだろうか…。
ないと思わず、先ずはにげる。避難が最善の方法と感じました。これから、自分が住む街で震災に対してどう向き合うかを考えさせられた、そんな会になりました。

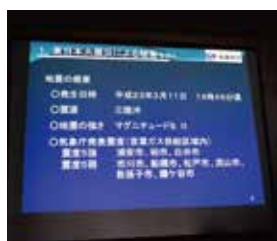
ひがふなフェスタ運営事務局 副局長 積田賢



京葉ガス

今回ひがふなフェスタタウンミーティングでは京葉ガスの保安体制や地震対策について説明させていただきました。これからも地域の方にはいつも安心して都市ガスをお使いいただけるよう体制強化を続けていきます。京葉ガスでは365日24時間の通報受付と出動体制を整えております。今回はガスメーターが地震等で遮断した場合の復帰操作を実演させていただきましたがもしもの時に備えて地域の方々にも共有して頂けると幸いです。

京葉ガス株式会社 お客さまサービス部 船橋支社
お客さまサービスG 及川茂樹



この度はひがふなミーティングへ参加をさせていただき、東日本大震災時における弊社の状況・ガスメーターの復帰方法を説明いたしましたが、参加された皆さまの防災意識の高さを実感するとともに、私自身も参加することによって改めて防災意識が高まりました。今後も更なるひがふなの発展を願っております。ありがとうございました。

京葉ガス株式会社 お客さま保安部 船橋施工グループ 岡田剛



船橋市危機管理課

市長公室危機管理課は、災害に強いまちづくりと災害に強い行動力を持ったひとづくりを目標に活動しています。今回、同課の矢島課長から3つの防災資料をご紹介します。①地震・津波ハザードマップは津波浸水予測や地震の予測被害状況が記載されています。自分の家の周りの被害状況を確認できます。②防災ハンドブックは災害に備えた準備と、災害が起きたときの対処方法をまとめてあります。③地区別防災カルテは各地区別の被害状況や防災関連施設・避難情報が記載されています。災害は突然自分たちに振りかかります。大切な家族と地域を守るために、これらの資料を活用して日頃から話し合いしておくことが必要であると思いました。

ひがふなフェスタ運営事務局 役員 藤川淳一

ひがふなミーティングに参加させていただき、誠にありがとうございました。ひがふなフェスタ運営事務局の皆様はじめ、出席されていた皆様の「防災」への関心の高さと熱い思いには、市として大変心強く思いました。南海トラフ地震や首都直下型地震などが危惧されている中、災害に対する日頃からの備えと「自助」「共助」が重要となりますので、ひがふなフェスタの取り組みは、市民と地域で活動している人たちが協働して災害に備える大きな減災力となります。今後も、ひがふなフェスタの益々のご発展とご活躍をご祈念いたします。

船橋市 市長公室 危機管理課 松岡利満

